

街のギヤング

けふ寝込みを襲る

愈よ第二次検挙の手

平署の膝元へ

既報平警察署は過般縣下一齋に行はれた街のギヤング狩は湯本、内郷、小名濱等に主力を注ぎ燈臺下平町には全然手を染めず満を持して放たざる型にあつたが愈よ一齊に本十七日午前六時を期し第二次検挙の手を延し平町からは稲葉清西内直衛、齊藤岳洞、鈴木龜雄、三守寅夫、長谷川兵衛、小野好市、高島吉次郎及び赤井村の木田清次合計九名の寝込みを襲ひ詐欺、強喝、横領の嫌疑で夫々検挙し

尼子稻荷

明晩が宵祭

長橋町尼子稻荷神社の祭典は明十八日が宵祭りであるが、中島湖洲師の漫談珍曲藝と金光堂の名曲レコードコンサート等があり例年以上の賑ひを豫想されて居る

磐女生磐梯登山

水泳練習を中止して

磐城高等女學校山岳部は来る廿一日より左記日程で山口、田中、日野、志村四教諭引卒の下に生徒約四十名が磐梯登山を行ふと因に是れが爲め水泳部の小名濱宿營は本年中止すると
△七月廿一日 午前五時五十分平驛集合同六時十五分出發午後零時十分會津樋の口着長瀬川にそよて徒歩一里半にて山麓の川上温泉着瀧の湯一泊

尚平署は

是れを切ッかけに近く物凄いの第三次検挙を断行し愈よ大物を登場せしむべき意圖にて證據固

マアの父を

搜索願出

内郷村大字綴北郷千代方安積静夫(三〇)は生れると間もなく親戚に預けられて成長したが一度實父に會ひ度いと二十年來の父を求め探して居た處二三年前から白河町に居るの噂に飛立つ喜びで昨十六日白河署長宛に父親の捜査願を出した

江名愛婦總會

知事夫人出席

既報本月廿一日午前九時から開かれる江名町愛國婦人會第一回總會は本縣支部長伊藤知事夫人が出席各種

明日のラジオ
十八日
報豫氣天
今晩も明日も南西の風驟雨模様

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間 史蹟めぐり「富田城址」島根縣廣瀬町中継
- 後六、二五 基礎英語講座 岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演「政治上の米田實」
- 後八、〇〇 謠曲「俊寛」觀世左近外
- 後八、三〇 義太夫ざはり

明日の部

- 前六、三〇 基礎獨語講座 (四四)武内大造
- 前七、〇〇 朝の修養「勝鬘經」(六)深浦正文
- 後九、一〇 料理献立「家庭向ランチ」(ムライス)小林忠雄
- 前一〇、三〇 家庭講座「夏の衛生と家庭看護」(終)醫學博士齊藤一男
- 後一〇、五〇 木曜コンサート「管絃樂」寶塚オーケストラ 指揮竹内平吉
- 後二、〇〇 婦人の時間 茶道の話「茶道に於ける主人の作法」千宗守
- 後六、〇〇 子供の時間 合唱「海邊の眺望」外七ツ J.O.A.K 唱歌隊 伴奏丹生健夫
- 後六、二五 講演「山岡鐵」

アンパンを食ふ

教員野球の珍景

小學校教員野球大會に汗と土に塗れたユニホームで大馬力の先生達、球の方日頃薫陶の悪童連よりも手ごわいとあつて仲々云ふ事をさせられず珍ゲームを繰出したが其

昭和入絹の樓上墜落

女工十四名が重軽傷

衛生講話中に此の椿事

植田署嚴重警告

錦村昭和入絹工場の女子寄宿舎二階廊下で昨十六日午後九時頃女工二百餘名に衛生講話中女工連の重量に耐えず突如八坪の廊下が高音響と共に墜落、女工四十餘名は折笠なつて階下に轉げ落ち遠慮ミツ外一名は瀕死の重傷を負ひ其他十名の輕傷者を出した騒ぎに會社側では狼狽し直に植田町の前田、高人兩醫師を招き應爲手當を加へたが同工場は去月末のガス洩れ事件及び四日の藥品火災等相次ぎ事故

赤井納稅表彰

赤井村は本十七日午前十時から同村第二小學校講堂に於いて本年度優良納稅組合十餘の表彰式を行つた

延命地藏入佛

町志津地内延命地藏尊の本堂は腐朽甚だしいので工費二百五十圓で新築中の處が此程落成する十四日盛大な入佛式を舉行した

平裁判たより

△屠蘇に泥酔して元且早々仲裁に入つた友人を刺殺した内郷村綴字一の坪坑夫若松市中六日町生れ佐藤丑藏(三三)に係る傷害致死並びに同人を毆打した同村堀坂坂々夫戸田市助(四三)の傷害事件は今十七日午前十時より平支部中島裁判所係り小林香西兩判事陪席、白水檢察立會、松野尾官選辯護士列席にて公判開廷丑藏に懲役三年求刑、五年市助は無罪求刑六月の判決言渡しがあつた

一冊の代金

御希望通りな五冊の雜誌が自由に讀める

川崎文庫

電六三〇番 (申込次第規則書進呈)



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島征史

(巻) 〇

第百七十七回

三人の訪客 (三)

『西洋に参つて西洋かぶれになつて歸られては朝鮮征伐もおしまひですな』

市之丞はいさゝか憤らし

くいつた。

『は、ア、朝鮮征伐かい』

西郷はそれだけいつて無

造作に腕を組んだ。

『岩倉、大久保等も近いう

ちに洋行するさうですが、

それより一足さきにあんた

は出かけられますか』

『さあ、誰も行つて来いと

いふものはないよ』

『あります』

『うむ』

『大久保がさういふ肚でを

ります』

『……』

『あんたが、しきりに征韓

論を主張されるので、大久

保は非常に困つてをるら

し』

『困りはしまい、お互國の

爲に兩論にわかれてをるだ

けさ』

『いや、眞實困り抜いて英

國公使パークスへ泣きつい

たさうです』

『なんと?』

『西郷を西洋へ追ひやるた

めにパークスに、すゝめて

くれと頼んだ事實がありま

す』

『ハッハ、ハ、それは、

おそろく大久保ではあるま

い』

お尋ね者の失業浪人の市



洋行するせんがなにも大事

件ではあるまい。國を料理

する人物がたくさん居る』

『しかし朝鮮征伐には』

『その外征として、わし一

人で出来る仕事でもなし、

いやわしより、あんたたち

に大いに働いてもらはんな

らん』

『音頭取りが必要ですよ』

『ところが音頭取りといふ

ものはどんな人間でもよい

わしがひつこんで權助が音

頭を取つても、それで大衆

は動くものだ。國と國との

いくさは民族を自體の發

動なんだ、やむに止まれぬ

いは、腹のすいた時いそい

で飯をかつこむやうなもの

さ。黙つて見て居つてもい

つの間にか日本民族大衆は

海を渡つて行く』

『日本民族大衆の意志はそ

れほどに動いて居りませう

か』

『さあどうもわからん、た

いわたし自身の意志と感情は動いてをるから、それで他の日本民族全體もさうだらうと思つてをる』

とて征韓の號令を天下にくだすだらう』

『それはあまりに大久保を買かぶつて居ります。大久保は非征韓論者の先頭第一番の男です。あんたが外遊なさると待つてましたといはぬばかりに、征韓論を叩きつぶしてしまひます』

『な、大志賀君、かりにわしは西洋に遊ぶとしたところから民衆の意志と感情を取まとして、いくさにならう。大久保は世間でいふ程非戦論者でもなさそうだが民衆の意向を察してどうにも鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も鎮撫がならぬときには誰

も